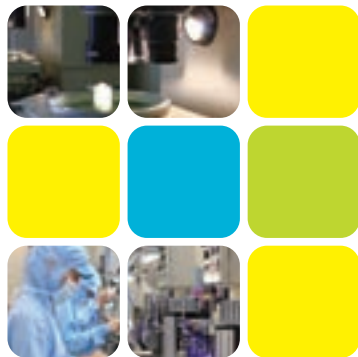




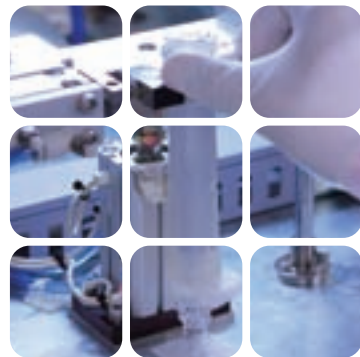
COOPDECH



第 **41** 期 株主通信

2008年4月1日~2009年3月31日

大研医器株式会社



我々は現在の医療を見つめ
明日の医療の創造を通して
社会に貢献します。

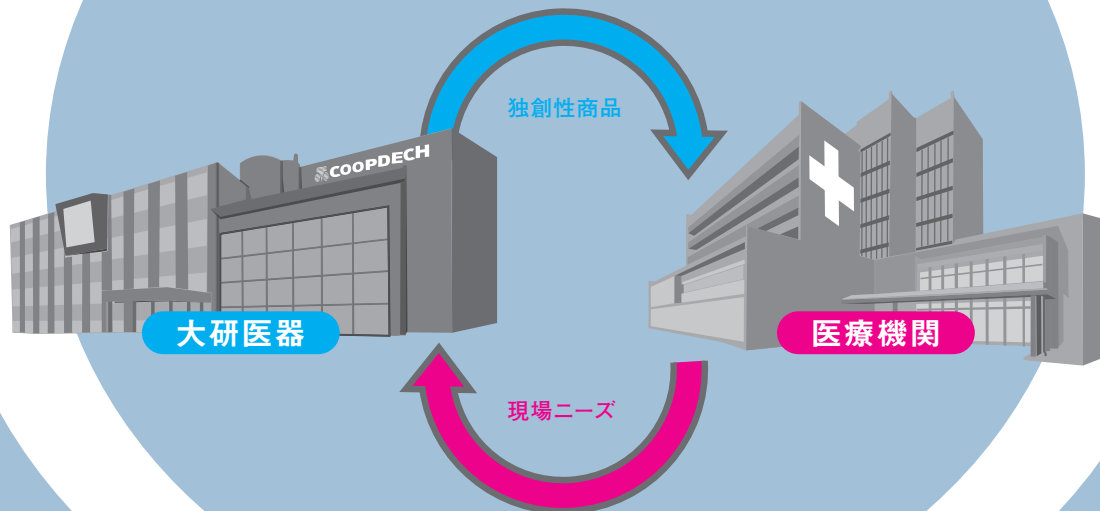


「クーデック」とは、「クーデター・
バイ・テクノロジー」という意味の
造語で、当社が展開する商品の統
一ブランドです。独創的な技術で
医療に革命をもたらしたいという、
当社の想いが込められています。

ビジネスモデル

製販一貫がもたらす、 医療現場との“価値創造ループ”

当社のビジネスの特徴は
商品を直接医療現場に届け
その時得た声を新たな商品に反映するという
価値創造のループです。



主要製品

Suction

手術中の血液や体液等の廃液を吸引し、ワンタッチで凝固させることができます。凝固剤一体型で完全密閉のため、安心して移動・焼却処分が可能です。ウィルス等の院内感染予防に貢献します。

クーデック フィットフィックス



手術中に排出された血液や体液を吸引し、貯溜するディスポーザブル吸引器。

クーデック キューインポット



軽量かつコンパクトな使い捨て吸引器。病棟で簡単かつ清潔に使用可能。

Pump

手術後の痛みやがんの痛みを軽減するため、麻酔等の薬液を常に一定の流量で注入します。大気圧やメカトロニクス技術を利用することで、理想的な流量精度を実現しました。またPCAを利用することにより、現場のニーズにあわせて鎮痛剤の追加投与が可能となり、高いQOLを実現しました。

クーデック シリンジェクターPCA



大気圧を利用し流量安定化を実現した医薬品注入ポンプ。現場のニーズにあわせて流量調整も可能。

クーデック シリンジポンプ



注射筒に入った輸液を注入する電動ポンプ。高い精度で多様な流量調整が可能。

Others

救命救急分野や外科分野への進出として技術力を蓄積。将来当社の3本目の柱となる成長分野です。

クーデック 気管支ブロッカーチューブ



片側の肺にだけ人工呼吸を行う「分離肺換気」をサポート。気管支への低負担が特徴。

クーデック ビデオオラリング スコープポータブル



CCDカメラで口腔内を映し、液晶画面に拡大表示して気管挿管をサポート。

“世界に輝く高度先進医療 機器メーカー”を目指して

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、当社初の個人投資家向けIRツールとなる、株主通信第1号をお届けします。

当社は2009年3月12日をもって、東京証券取引所市場第二部に上場しました。その際には多くの方に新たな株主となっていただき、感謝の念に堪えません。

このご恩に報いるためにも、今後とも社員一丸となって新基軸の医療製品を世に問い、“世界に輝く高度先進医療機器メーカー”として羽ばたいていきたいと存じます。順調な結果となった当期の決算は、その第一歩です。皆さまにはこれからも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 山田 圭一



当期の業績

主力商品群が好調で増収増益を達成

上場後初の決算となった当期決算で、当社は売上高51億81百万円(前期比12.4%増)、経常利益6億35百万円(同28.5%増)と、当初予想をやや上回る業績を達成できました。

アメリカのサブプライムローン問題に端を発した金融危機が世界経済を襲った当期ではありましたが、当社の業績にはほとんど影響がありませんでした。医療機器という極めて

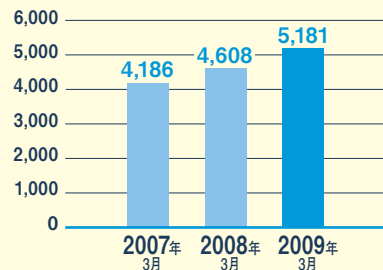
ディフェンシブな市場に属し、中でも手術室や集中治療室といった特殊な用途を得意としているためです。ある意味、当社のビジネスの安定性を証明できたと自負しております。

業績向上を支えたのは、「フィットフィックス」をはじめとする吸引器や、「シリンジェクター」などの医薬品注入ポンプといった主力製品群でした。中でも好調だったのが、軽量・コンパクトが売り物の吸引器「キューインポット」。安全性と

財務ハイライト [2009年3月期]

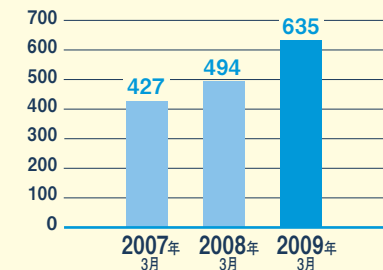
売上高

単位:百万円



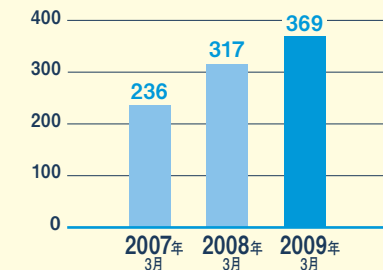
経常利益

単位:百万円



当期純利益

単位:百万円



使いやすさを両立した独自の特許製品で、簡単かつ確実に病室での排液管理が行えることが評価された格好です。また、大手病院中心に営業マンが足繁く通い、医師などの関係者を説得して受注を得るといった地道な努力も、着実な成果を上げました。

一方、研究開発部門では、将来の大型製品候補の開発を予定通りに進めることができました。ただ、私は現状の

開発スピードにはまだ満足していません。当社の研究開発部門からは、いつも良いアイデアは出のですが、製品化までにまだ時間がかかり過ぎています。この問題を解決する方法として、例えば、樹脂粒子から立体物を作り出せる「3Dプリンター」をはじめとした試作機器の導入や、研究開発のコアとなる人材も増員しています。

独創性のある製品を世に問う

当社の最大の特徴は、高度先進医療分野で役立つ製品を開発から販売まで一貫して手掛けていること。それによって、販売の際に得た医療現場の声を、新たな製品開発にフィードバックできることです。製品の点数はそれほど多くはありませんが、ほとんどの商品がトップシェアかそれに近い位置を占めています。

このような実績を上げられるのは、ひとえに当社が抱える

人材の力ゆえです。機械、電気、生物、医学などの専門分野を持つ技術者をはじめ、多彩な人材を抱えているからこそ、独創性のある製品を世に問うことができるのです。

現在、主に取り扱っているのは麻酔科関連などの製品ですが、今後はさらに研究開発の規模を広げ、他の分野にも進出していきたいと考えています。その好例が、次に紹介する「咽頭冷却装置」です。

CASE

生存率の向上を目指す 咽頭冷却装置

事故などで患者が心肺停止状態に陥った際、脳の温度を速やかに下げてダメージから脳を保護する装置です。咽頭冷却装置は使い捨てのカフと外付けの冷却循環装置でできており、カフを患者の喉に挿入し冷却した液体を循環させることで、血流を通じて脳を素早く冷やします。

岡山大学との共同研究で開発を進めているもので、既に動物実験では、分単位のオーダーで、全身の温度を下げることなく脳の温度だけを選択的に低下させることに成功しています。

救命救急分野では、毎年約10万人に対し心肺蘇生術が行われていますが、脳に多大なダメージを生じることが多く、一ヶ月後の生存率は一割程度という事実が昨年度の消防白書によって示されています。現在、「低体温療法」という全身を冷却する方法はありますが、脳の冷却に数時間を要します。この装置が実用化されれば、より多くの患者さまの社会復帰への貢献が期待されます。



この装置を、救命救急という新分野を開拓できる可能性を持った大型製品と位置づけ、早々の製品化を目指して研究開発を進めています。

一方では、医療事故の低減につながると現場の医師から

の要望が多い、あらかじめ薬剤が入った（プレフィルド）医薬品注入ポンプの研究も進めています。このような、現場の要望に基づいた世界にまだない製品を研究開発していくことで、着実な成長を目指します。

今後の展開

未来志向で取り組み、十分な株主還元を

当社の来期の売上高は、当期よりもう少し大きなものにできそうです。具体的には、売上高で56億円、経常利益で7億円を予想しています。

研究開発面では、先述の咽頭冷却装置を完成させる一方、吸引器や医薬品注入ポンプなど既存分野での技術革新を着々と進めます。営業面では、特にキューインポットやシリンジェクター関連でさらなる市場拡大を目指します。また、新製品「プレスウォーム」(⇒P9参照)の拡販にも取り組みます。

今後の当社を支える人材の採用も重要な課題です。そもそも当社がこのたび上場したのは、資金調達のためではありません。知名度と安定感の向上による、人材の獲得こそが大きな目的の一つです。今後、積極的に採用活動を行い、将来をともにする人材を集めたいと思います。

また、将来の課題としては、海外への進出を視野に入れていきます。そのためには、純粋に製品力で勝負していくほかありません。ヒット商品「キューインポット」のような、他にはない機能を持つ製品を、海外でも通用する価格で実現できれば、道は自ずと拓けます。そのため何をするべきか、越えるべきハードルは既に設定済みです。

これらの施策を通じて当社は、“世界に輝く高度先進医療機器メーカー”を目指して歩んでまいります。もちろん、株主の皆さまには配当やキャピタルゲインを通じ、十分な還元を実施していきたいと考えております。今後とも、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



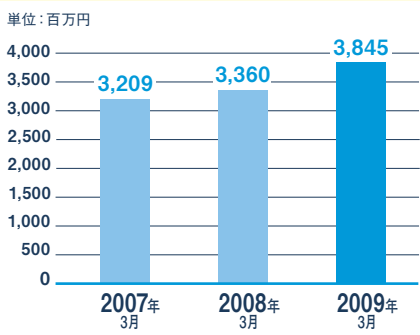
当社の研究開発機能を一手に担う「商品開発研究所」(大阪府和泉市)



流動資産

38億45百万円

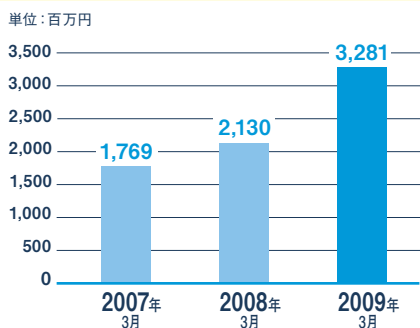
前期末に比べ4億84百万円増加しました。主に、現金及び預金が2億14百万円増加したこと、および売上増に伴い受取手形及び売掛金が2億36百万円増加したことなどによります。



純資産

32億81百万円

前期末に比べ11億51百万円増加しました。主に、新規上場に伴う新株発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ4億円増加したこと、および繰越利益剰余金が3億21百万円増加したことによります。



貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前事業年度 (2008年3月末)	当事業年度 (2009年3月末)
資産の部		
流動資産	3,360	3,845
固定資産	3,030	3,063
有形固定資産	2,605	2,602
無形固定資産	43	84
投資その他の資産	380	375
資産合計	6,391	6,908
負債の部		
流動負債	2,666	2,335
固定負債	1,594	1,291
負債合計	4,261	3,627
純資産の部		
株主資本	2,125	3,279
資本金	95	495
資本剰余金	12	418
利益剰余金	2,211	2,532
自己株式	△193	△167
評価・換算差額等	4	2
その他有価証券評価差額金	4	2
純資産合計	2,130	3,281
負債純資産合計	6,391	6,908

損益計算書

(単位：百万円)

科目	前事業年度	当事業年度
	(自 2007年4月1日 至 2008年3月31日)	(自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)
売上高	4,608	5,181
売上原価	2,335	2,646
売上総利益	2,272	2,535
販売費及び一般管理費*	1,743	1,827
営業利益	528	707
営業外収益	4	14
営業外費用	38	85
経常利益	494	635
特別利益	—	1
特別損失	2	15
税引前当期純利益	491	621
法人税、住民税及び事業税	168	289
法人税等調整額	6	△37
当期純利益	317	369

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前事業年度	当事業年度
	(自 2007年4月1日 至 2008年3月31日)	(自 2008年4月1日 至 2009年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	133	613
投資活動によるキャッシュ・フロー	△393	△185
財務活動によるキャッシュ・フロー	94	△213
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△165	214
現金及び現金同等物の期首残高	1,112	946
現金及び現金同等物の期末残高	946	1,161

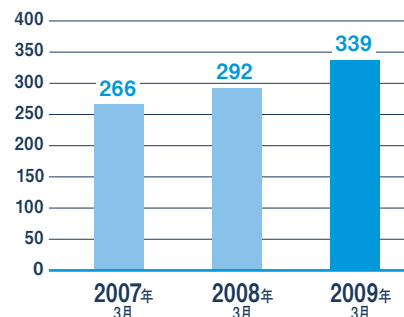
研究開発費

(※販売費及び一般管理費)

3億39百万円

前期に比べ47百万円増加しました。主に、産学連携による先端医療機器の開発を行っております。

単位：百万円

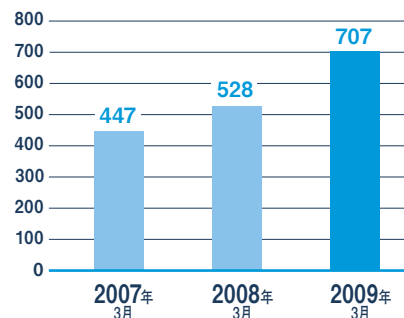


営業利益

7億7百万円

前期に比べ1億78百万円増加しました。主に、売上げに伴い売上総利益が2億62百万円増加したことによります。

単位：百万円



東証二部に上場

当社は3月12日、2009年の上場第一号銘柄として、東京証券取引所市場第二部に新規上場を果たしました。

上場の主目的は、当社の知名度と信頼性を高め、優秀な人材の獲得に役立てること。お陰さまで、初値は公募価格と同じ1,150円を付け、その後もおおむね初値を上回る水準で取引されています。

今後も業績の拡大を続け、将来的には東証一部への指定替えを目指しますので、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



上場セレモニーで東証の鐘を鳴らす当社社長・山田



セレモニーには、当社役員などが参加



クーデック® プレスウォームを発売

当社はこのほど、手術の際に体の術野以外の部分を保護する「オィフ」の新製品「クーデック® プレスウォーム」を発売しました。アクリレート系の吸湿発熱繊維を60%配合し、保温性を高めた不織布オィフ。水分を吸湿すると発熱し、患者さまの体力維持を助けます。患者さまをやさしく覆える柔らかさも特徴のひとつです。

全身を余裕をもって覆えるWサイズと、レギュラータイプのRサイズの2種類を用意。使い捨てのため、清浄性も保たれています。

会社概要 (2009年3月31日現在)

社 名：大研医器株式会社
 設 立：1968(昭和43)年11月5日
 代表取締役会長 山田 満
 代表取締役社長 山田 圭一
 売 上 高：51億8,178万円
 従 業 員 数：110名
 本 社：〒541-0045
 大阪市中央区道修町3丁目6番1号
 業 種：医療用機械器具製造販売、
 医療用機械器具輸出入

役員一覧 (2009年6月25日現在)

代表取締役会長：山田 満
 代表取締役社長：山田 圭一
 常 務 取 締 役：山田 雅之
 常 務 取 締 役：大浜 正彦
 取 締 役：柳堀 真司
 取 締 役：徳山 平烈
 取 締 役：中川 誠治
 監 査 役：上原 康司
 監 査 役：大工舎 宏
 監 査 役：岩城 本臣

Stock Information 株式情報 (2009年3月31日現在)

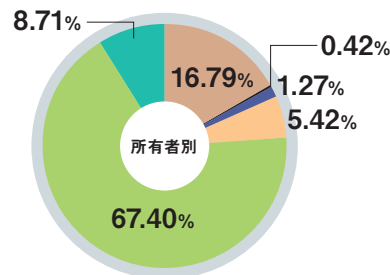
株式の状況

発行可能株式総数……………12,920,000株
 発行済株式総数……………3,980,000株
 当期末株主総数……………825名

大株主	持株数(株)	持株比率(%)
山田 満	804,660	22.1
山田 圭一	764,720	21.0
山田 雅之	389,420	10.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	240,400	6.6
山田 米子	192,340	5.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	132,800	3.7
大研医器従業員持株会	107,400	3.0
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフシーノーザン トラスト ガンジー ノントリーティー クライアーツ	85,000	2.3
第一生命保険相互会社特別勘定年金口	84,000	2.3
ゴールドマン・サックス・アンド・ カンパニーレギュラーアカウント	80,000	2.2

※当社は、自己株式を346,460株保有しておりますが、議決権がないため上記大株主より除外しております。

株主分布状況



所有者別分布状況	株主数(名)	株式数(株)	百分率(%)
金融機関	11	668,200	16.79
金融商品取引業者	9	16,685	0.42
その他の法人	16	50,600	1.27
外国法人等	11	215,700	5.42
個人その他	777	2,682,355	67.40
自己名義株式	1	346,460	8.71

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部 電子公告により行う。
公告の方法	公告掲載URL http://www.daiken-iki.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない 事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



〒541-0045 大阪市中央区道修町3丁目6番1号 京阪神不動産御堂筋ビル14F
TEL:06-6231-9901 (代表)
<http://www.daiken-iki.co.jp/>